



# 帯広西ロータリークラブ 第2500回例会 2024.11.14 会報



■RI第2500地区スローガン■

■クラブ・テーマ■

ロータリーに参画しましょう！  
誰かのために、あなたのために、自分のために

「出会い」「気概」「熱意」

米山記念奨学生  
ファトヒ・アテフェ 様



してロケット教室に初めて取り組みました。その後は地区補助金を利用して毎年開催しています。私も3回参加しましたが、毎回子供達の好奇心に溢れ、輝く目を見ています。今後も西クラブの事業として継続して開催していければと思っています。その思いを年度初めに所委員長に伝えました。

今日は所委員長から今後のことも含め話をしてもらいます。次年度のみなさんもよく聞いてください。以上で会長報告を終わります。

## 会長報告

飯田 正行 会長

みなさんこんにちは。会長報告を申し上げます。先週は出張で欠席し誠に申しわけありませんでした。会長の役割として、副会長にも出番を用意しなくてはならないとの事で、ご了解いただきたいと思ひます。後半戦にも西藤副会長、北川副会長の出番をしっかりと用意しています。二人には準備万端整えて頂けたらと思ひます。



最近の世の中の流れは、日本では衆議院選挙、アメリカでは大統領選挙と毎日の様にテレビを賑わしていました。大統領選挙に目を向けると、選挙前のテレビでは接戦が予想されていましたが、結果はトランプさんの圧勝で大統領への返り咲きを果たしました。トランプさんは1946年生まれ昭和21年生まれの78歳です。西クラブでは、林文昭さん、太田一也さん、渡辺省一さんの1歳上で年齢的にも近い方がいます。これからも益々活躍されることを希望します。

本日の例会は社会奉仕委員会の担当例会となります。西クラブは植松電機のUEパートナーに登録され、独自にロケット教室を開く事ができるようになりました。子供達の自信と可能性が奪われない社会の実現で、それに賛同した団体がパートナーとして登録をしています。西クラブも50周年の時に3つの約束として掲げた未来を担う青年のために私たちが出来ることの一つと

## 会務報告

平田 宗利 幹事

帯広西RC 夜間例会開催のご案内  
日 時 11月18日 (月) 午後6時30分  
場 所 北海道ホテル  
帯広東RC 11月26日 (火) 例会は、休会と致します。  
帯広西RC 11月28日 (木) 例会は、休会と致します。  
帯広北RC 11月29日 (金) 例会は、休会と致します。  
帯広西RC 年次総会開催のご案内  
日 時 12月 5日 (木) 午後0時30分 (例会時)  
場 所 北海道ホテル

## 委員会報告

ニコニコ献金  
所 輝泉 会員

山本 範之 会員

本日、担当例会です。宜しくお願いします。  
山本 範之 会員  
ニコニコを発表させて頂きました。

ニコニコ	11月14日	4,000 円
献 金	累 計	403,000 円 (11月14日現在)

## プログラム

社会奉仕委員会

# 「ロケット教室と今後」

社会奉仕委員会 所 輝泉 委員長



みなさんこんにちは、社会奉仕委員会の所です。本日は、今年度行いましたロケット教室とロケット教室の今後について話をさせていただきます。

まず、今年度のロケット教室では、植松電機の植松社長をお招きし、9月5日に帯広啓北小学校の6年生を対象に授業を行いました。予算ですが、モデルロケット代3,300円×生徒数53名＝174,900円、植松社長の交通費、宿泊代として55,000円合わせて229,900円となっています。今年度も地区補助金を活用し、本年で3年目の継続事業となります。

地区補助金に規約として、継続事業の申請は連続3年までとなっていますので、次年度以降、仮に同じロケット教室を行う場合、地区補助金は一応活用出来ない形となります。ただ、解釈の問題で、出来るかもしれません。今回行ったロケット教室の当日のスケジュールですが、植松所長の講話があり、その後、生徒達がロケットを製作し、校庭で一人一人ロケットを打ち上げ、午前中一杯使った授業でした。今年度で3回目のロケット教室でしたが、改めてロケット教室がどの様なものか説明いたします。植松社長の講話では「どうせ無理」を「だったらこうしてみたら？」に。人の可能性を奪わない社会を目指します。と話しています。「どうせ無理」



会 長 飯田 正行 副会長 西藤 博行 会場監督理事 谷脇 正人 発行：広報委員会 (副)山村 かおり  
幹 事 平田 宗利 副会長 北川 勝啓 プログラム委員会理事 辻田 茂生 委員長 菊地竜太郎 (副)金澤宗一郎



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033



という言葉は人の可能性を奪います。興味を持たなくなり、やる前に諦め、考えなくなります。「だったらこうしてみたら」との言葉は人の可能性を広めます。やった事の無いことに挑戦し、諦めず、より良くを求めることとなります。自らを描き、思い、挑戦していくことで宇宙開発を通し、子供達に夢を持ち、挑戦していく事で、自信を持ち、可能性が奪われない社会を目指します、と話されました。

講話の後、ロケットの製作になります。子供達は説明書を読みながらロケットを製作します。講話の中で、ロケットの作り方は一切教えません。分からないことがあれば、他人に聞きながら製作してください。分からない事があっても恥ずかしい事ではありません。と話しています。植松社長の経験や体験に基づき、自分の可能性、本当の自信とは何かを話し、ロケット製作を経験し、やった事の無いことに挑戦するという一連の流れとなっています。ロケットを作る事は子供達にとってそんなに難しい事では無いのですが、ロケットを打ち上げて、パラシュートで落下してくるのですが、そのパラシュートがちゃんと開くか、開かないかはパラシュートのたたみ方にあり、一番難しい事です。製作後、校庭に移動し、ロケットの打ち上げになります。植松社長が発射の手順を説明し、デモ機を打ち上げます。その後、一人一人が打ち上げました。子供達は目をキラキラさせながら、パラシュートが開いて落ちてくるロケットに向かって走って回収に行きました。パラシュートが開く事が結構難しい事で、自分だけがパラシュートが開かなかっただろうしようとか、開かなくて違う場所に行ってしまったら恥ずかしいかと思ひ、不安になっている子供達がいっぱいいます。実際に打ち上げて、ちゃんとパラシュートが開き、回収が出来、この打ち上げ体験により、出来ないと思っていた事ができた喜びが体験出来、本当の自信とはこのような事と感じてもらおう全体の流れとなっています。今年度のロケット教室のまとめですが、子供達に夢と勇気、自信を持ってもらうことになったと思います。ロータリーの公共性のイメージおよび認知度の向上に繋がったと考えます。

勝毎に掲載された記事です。また教育機関で配布されている冊子の記者も来ていて記事にさせていただき先生方に配布されています。今回のロケット教室を保護者の方にも見て頂けたらと思ひましたので、今回の講話動画を含めまとめたものを保護者しか閲覧できないパスワードをかかっている

「好きなことに挑戦を」 植松電機社長が各北小で講演 自作ロケット打ち上げも

2023年10月19日



植松電機社長が各北小で講演 自作ロケット打ち上げも

各北小で講演した植松電機社長は、講演後、各北小の児童と交流し、自作ロケットの打ち上げにも参加した。

講演後、各北小の児童と交流し、自作ロケットの打ち上げにも参加した。

講演後、各北小の児童と交流し、自作ロケットの打ち上げにも参加した。

講演後、各北小の児童と交流し、自作ロケットの打ち上げにも参加した。

るページにアップしました。私の感想ですが、何より、私達ロータリアンも子供達の輝く目や笑顔を見る事で元氣と勇氣をもらいました。飯田会長の会長報告にもありましたが、現地で子供達の楽しそうな笑顔やキラキラした目を見ていると自分たちも元氣をもらったと話しています。また、子供達に対する一つのアプローチとして、非常に有効なツールの一つだと感じたので飯田会長も話しています。

これからはロケット教室の今後について話をさせていただきます。まずUEパートナー制度について説明させていただきます。UEとは植松電機のごことで、マイスターコースを受講することで認定団体になり、植松電機のパートナーになれる。具体的には安全にロケット教室を行うために、ロケットキットや発射台を購入出来、植松電機から様々な支援を受ける事がで



きます。今回、この講習を10月19日に赤平市の植松電機本社で受講してきました。朝から交流会を含め6時くらいまでの講習で、座学から始まり、実際に自分でロケットを打ち上げました。コストから技術的な細かいことや、植松電機の持っているロケット教室のノウハウなど、細かく学びます。マニュアル本には、例えば、発射台、発射台ケーブルの片付け方から、発射時の風を読み方、太陽の位置での発射台の位置などが細かく記載されています。また、子供達への声かけの仕方など様々な事が記載され、ロケット教室で困った時に見返す事ができる本となっています。



受講者はロケットを実際に製作し、自分で打ち上げをしました。私も実際にロケットを1機作り、自分で風を読み、発射台を置き、着地点はここで想定し打ち上げを行いました。当日は大雨と強風でロケットの打ち上げには向かない日でした。私の作成したロケットも全然想定した場所と違うところに落ちました。写真に写っているのが私の作ったロケットです。ロケットを作るのは簡単でしたが、作成後ロータリーのマジックを描き

ました。ロータリーのマジック号と名付け、これを飛ばしてきました。下にある火薬エンジンを入れ替えると、何度でも飛ばす事が出来ます。ロケット教室を開催する際の懸念事項は、今回は植松社長がいらして講話を聞いた後、ロケットを作り発射しましたが、植松社長がいらっしゃらず、講話も無しの場合、ただのロケットを作り打ち上げるだけの理科の実験になってしまうのではないかと考えます。マイスターコースを受講することにより、植松社長の講話と同じ内容のVTRデータをもろう事が出来ました。これをロケット製作の前に流すことにより植松社長が来ている時と同じ効果が期待できると思います。

続いて自前でロケット教室を開催した場合の初期費用を試算しました。ロケット発射に伴う価格表です。発射台、発射装置、カラーリングマジック、のり等の消耗品を含め、最初にかかる費用は6万円程度と思われます。

今回、啓北小学校では、植松社長の宿泊費も含め、229,900円でした。これと同規模の学校で、自前で教室を行った場合、キット代×53名分143,100円で約8万円ほど安くできると思われれます。ロケットキットも今回講習を受けましたので、3,300円から2,700円と若干安く買えます。現在エンジンはアメリカから植松電機で購入していますが、今、植松電機で製造の認可をとっているそうです。認可が取れると、2,700円から400円～500円程度安くなるようです。

最後にロケット教室の今後ですが、西RCが認定団体になったので、今後自前で植松社長を呼ばなくてもロケット教室の開催が可能となりましたので身軽になった分、小規模の小学校2～3校で開催できる可能性があると考えます。広く浅くではないのですが、複数校にアプローチするのも有効と考えます。ロケット教室は今後も西クラブとして行っていける奉仕事業になり得ると考えます。

ここからは私の感想です。ロケット教室に出た子供達の輝く目を見ると、自分たちも青少年に対して何かやってあげたいという気持ちにはなっています。私は他の団体でも何かしらやってきましたが、子供達に対する何かアプローチをして、子供達から帰ってくる反応を見ると、やりがいがあると思ひますし、未来ある子供達に何かやるツールの一つとして、このロケット教室は非常に有効なものではないかと思ひます。

以上、本年度のロケット教室とロケット教室の今後についてでした。ご静聴ありがとうございます。